



## きょうりゅう 恐竜 はなぜいなくなったの

### 6500万年前に気候などの大変化があった

恐竜は、今から2億2000万年前ごろ現われ、種類も数もどんどん増えましたが、6500万年前ごろ、絶滅つしてしまいました。恐竜たちが元気のよかった、この1億4000万年間という長い間は、地球の気候はおだやかで、あまり大きな変化はありませんでした。そのため、恐竜は大型のものがたくさん現れ、そのころの気候や環境に合わせて、体のしくみも、だんだん変化していきました。ところが、6500万年前、とつぜん地球の気温や環境に大変化があり、その変化についていけなかった恐竜は、ほろびてしまったのでしょう。化石のうまっている地層を調べると、このとき死んだのは恐竜だけではなく、海、陸上の生物の80%近くが、死んでしまったという学者もいます。

### ぜつめつ げんいん きょだい せき かざん だいふんか 絶滅の原因は巨大いん石か、火山の大噴火

6500万年前の地球の気候や環境が、大変化した原因については、巨大ないん石が地球に衝突したという説と、火山の大噴火があったという説があります。いん石衝突で、大爆発が起こり、大量のちりやほこりが地球全体の空をおおい、何か月も太陽の光があたらず、気温は下がり、植物はかれ、寒さ、食べ物不足で恐竜は絶滅つしたというのです。火山の大噴火でも、同じようなことが起こり、恐竜は絶滅つしたとされています。

しかし、化石の調査で、7400万年前ごろから、恐竜の数がどんどん減っていたことがわかっています。また、恐竜以外の生物は、たくさん生き残って、今いるさまざまな生物にまで発展してきているため、恐竜は、伝染病で死んだという説もあります。結局、はっきりしたことは、わかっていません。(監修・今泉 忠明)

